

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070401627		
法人名	社会福祉法人 鷹羽会		
事業所名	グループホーム 花みずき		
所在地	福岡県北九州市小倉北区篠崎1丁目9番6号 (電話)093-592-3605		
自己評価作成日	令和4年1月20日	評価結果確定日	令和4年3月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

同じ敷地内に同一法人が運営する軽費老人ホーム、通所介護が併設しており、軽費老人ホームに関しては43年という歴史によりコロナ禍前は、地域に根指した活動ができており地域活動や行事等一緒に活動する事も多くその際入居している施設の垣根を越えて助け合いも自然に生まれ心地よい環境となっていたが、現在は感染予防により実施は難しい状態になっているが、ホーム周辺散歩時には距離をおいて声を掛け合っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和4年2月15日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

“利用者の話をじっくり聴く”を事業所のコンセプトとして取り組んでいる。こうした取り組みによって、両者に深い絆が形成され、信頼関係の基盤になっている。管理者、職員の連携も良く保たれ、医療連携も優れているのが特徴である。隣接施設との協力、連携も良好で、職員による正月、節分、雛祭り等をイメージした鳥居、おみくじ、賽銭箱を手作りして神社を共用空間に設置し、利用者の神社参拝の希望を実現できるよう努める等、利用者の生活がより豊かになるよう配慮している。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼、GH会議、全体会議時は必ず理念、方針を唱和している。また、職場の教養本を毎日唱和、感想を順番に述べ理念等と照らし合わせながら実践に繋げている。	“入居者一人一人が住み慣れた地域で、心豊かに暮らせるように、温かなサービスの提供に努めます”を理念に掲げている。朝礼時に唱和し、終礼時には理念に即した介護が今日一日できたかの検討が行われる。管理者が勤務のローテーションに加わり、理念を共有できるよう必要に応じて職員に話をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、町内の敬老会の設営準備や神社の清掃活動を行っている。また地区の子ども神輿も事業所に来てくれており休憩場所として園内ホールを提供しており子ども達との交流を楽しんでいるが、去年よりコロナ感染予防対策の為行っていない。	コロナ禍のため、地域との付き合いは控えているが、本来、保育所や小学校、中学校との交流は活発である。神社の清掃活動や子供神輿の休憩場所の提供等を行っている。近所からの花の差し入れがある等、地域と交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の敬老会時に軽費、DS、GHの特色、入居条件を記したパンフレットを配布し施設見学や相談は随時可能であることを伝える必要な支援に繋げているが、現在はコロナ感染予防対策の為行っていない。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、コロナ感染予防対策の為、主に書面会議で行っている。活動内容や入居者の現状報告、事故報告の内容等ホームでの対応方法を説明しもっと良い方法がないか相談をしたり客観的意見を頂きケアに繋げている。	コロナ禍のため、運営推進会議は書面で開催されており、FAXや電話等を通して意見交換が行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて包括支援センターの担当者と意見交換を行っている。(現在は主に書面会議)また、毎年12月にグループホーム協議会主催での市との意見交換会があり、実情を伝える機会があるが、現在はコロナ対策で開催が自粛されている。	毎年12月にグループホーム協議会主催で行政との意見交換が行われるのが恒例であったが、コロナ禍のため現在は、行政の担当者や地域包括支援センターとの連絡を密に行って、コロナ禍の対策等を検討している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回身体拘束廃止委員会会議を行っており、同月のグループホーム会議にて内容を報告し実践出来ているか振り返りを行っている。	3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催して実践状況を確認している。職員は利用者の外出傾向を把握し、見守りや付き添い等を行っている。職員全員が内部研修を受けており、外部研修も全員が受講できるように配慮している。伝達研修もなされ記録等も残されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待のニュースや事例をもとに発生した要因を考える機会をその都度作り身近に起こりやすく認識が必要である事を学び予防に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がいる為後見人の方に情報を教えて頂いたり年1回研修にて学んでいる。また家族には、入居時に必ず説明をしている。	制度に関しては利用者、家族に契約時に説明されている。また、職員は研修を受講し、研修記録等も保管されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	要介護3になると特養の申し込みが出来る事や看取りを行っていない為どのような状態になったらホームでの暮らしが難しくなるのか細やかに説明し同意書を頂いている。状況に応じて家族に再度説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時（リモート含む）や電話等で近況報告を行い、話の中から汲み取れる要望や意見箱の意見はスタッフが情報共有し、実践できるよう努めている。	利用者が日常的に意見や思いを職員に伝えられる機会がある。利用者、家族の要望でミシンでの裁縫をする等、意見や願いを運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議やスタッフ会議の際に意見交換をしており、管理者が代表者に提案し繋げるパターンが多い。	職員は、管理者との意見、提案等を介護の現場で自由に行っている。調理に関して利用者に適した調理法やトイレ誘導の時間を変更する提案等が取り入れられている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用形態の改善は、代表者に掛け合っている。また、出来るだけ希望休や年休が取れる様調整しリフレッシュできる環境作りに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集、採用については特に制限はなく行っている。定年後も体力、気力があれば雇用を継続している。体力や得意分野に応じて仕事内容を勧誘し無理なく仕事ができる様配慮している。	採用選考では、性別や年齢等を理由に採用対象から排除していない。定年はあるが、希望に応じて継続できる。配置等も職員の希望に応じてなされている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員への人権教育、啓発活動に関する取り組みについては年1回研修にて学んでいる。	全職員が人権に関する研修に参加している。また、一部の職員が外部研修を受講し、全職員への内部での伝達研修が行われている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年内部研修は、外部研修に行った職員が講師となりGH会議後に行っているが、現在はコロナ対策の為ほぼ内部研修で回覧となっている。その際ホーム内でのケアを振り返る事ができる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県GH協議会に所属しており研修等年間計画に沿って参加しまた他施設職員との交流ができていたが現在はコロナ対策で実現できず。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の想いが話しやすい環境を作り不安を取り除けるよう時間をかけて信頼を得る様努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用するにあたり生活歴、入居する経緯を聞き取り家族の想いをしっかり受け止めながら本人と家族の関係が良い方向に向かうよう努めている。また、毎月近況報告を郵送にて行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りによりサービス内容を細分化しスタッフミーティングにより共通サービス、個別サービスを考慮し個々にあったサービスを導き出すよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として料理やしきたり、人との上手な付き合い方等学ぶ点が多く、スタッフが教えてもらいながら一緒に取り組む事により関係を深め共存している事を感じて頂けるよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の想いを家族に伝えたり、また家族の想いを本人に伝えたりと家族との絆を大切にしている。面会（リモート含む）や電話での会話後、繋がっている事に対し必ずスタッフが感謝の言葉を伝えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの場所や人について家族から聞き取ったり日頃から地名や場所等を会話の中にちりばめ入居者にこういった暮らしをしていたか自ら語られる場面を作るよう努めている。	職員は利用者の馴染みの人や場所について、利用者・家族から聴取して把握している。ドライブでは、利用者の思い出の場所に立ち寄る等、関係継続の支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の希望や相性を考慮し利用者同士の和が築けるよう食事やレク等の席や声の掛け方に配慮し支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も相談等応じる事を家族に伝えている。契約終了後も家族からの相談の電話を頂いたり亡くなった際に連絡等頂く事もある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思の疎通が難しい利用者には、表情で読み取ったりまた家族に聞き取りを行い本人の想いに添えられる様努めている。レクリエーション等枠にとられず思い出の品を見ながら語って頂くなど個々の対応を行い気持ちを引き出せる環境を作りを行っている。	利用者との日々の会話の中から、思いや意向を把握するようにしている。意思を伝えることが困難な利用者には、表情や行動から意向を推しはかったり、家族から聞き取ったりして把握している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独り暮らしを長年されて共同生活が苦手な方など個々の想いや洞察力を鍛えながら支援の方向性を見極める材料としている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	加齢に伴う体力低下など休憩を挟んで無理のない個々のスタイルを尊重しつつメリハリのある活動を織り交ぜている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には利用者の状況を説明し意向を尋ねてケアプランに反映させている。GH会議では処遇について話し合い気付きを情報共有し現状に合った計画を作成し実践している。	介護計画は、主治医の意見を反映させ、月に1度行われるグループホーム会議の中で、職員全員で課題等について話し合い、利用者一人ひとりに沿った計画が作成されている。介護計画の見直しは、状態に変化があった場合、もしくは6か月に1度行われ、家族に説明し署名、捺印をもらっている。家族の来所が困難な場合は、郵送し電話で内容を説明し同意を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などケース記録に記録し朝礼や終礼時も報告し合い、更に話し合いが必要な内容はGH会議で課題として挙げている。また、毎日モニタリング実施表にチェックし確認を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援の内容が柔軟に対応できる様他施設での対処法を法人内の朝礼時の倫理本の一読をヒントに凝り固まった昔の考え方を払拭できるチャンスがありアイデアが出てくる事が多くなっている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時々参拝に行く近所の神社で清掃活動を行い「いつもお願い事ばかりしているからお礼をしなくては」と感謝の気持ちと清掃後の達成感を感じる事ができ地域活動を通して支え合う支援ができる様努めているが現在は、コロナ対策で実施できていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望によりかかりつけ医、緊急搬送先を決めている。状態変化時や事故の際は家族、かかりつけ医に報告し指示を仰いでいる。	利用者は、かかりつけ医の継続診療と、事業所に訪問診療にきている診療所を選ぶことができる。急な病院受診の際や家族が遠方に住んでいる場合は、職員が付き添い受診している。受診の結果は、電話で家族に報告を行っている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回看護師が勤務しており、介護業務も行う為相互理解が得られ適切な受診に繋げている。また隣接しているDS、軽費老人ホームにも看護師が勤務している為支援体制は整っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は病状把握に努める為、現在はコロナ禍の為電話にて（コロナ前は訪問）認知症が急速に進行しない様退院のタイミングを病院と協議しながら支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所内で重度化、終末期の方針、対応について入居前、入居時に家族に説明し（看取りを行っていない事）同意書を頂いている。また入居後状態の変化等に対し、再度説明し家族や本人の意向を確認したうえで次施設についての説明を行い支援する事を伝えている。	「重度化等による次施設等への支援についての確認書」を用いて、事業所で可能な支援について説明し、利用者、家族の同意を得ている。状態変化や入院等で、事業所での生活が困難となった場合は、医療機関への入院や特別養護老人ホーム等への入所支援を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時等の対処法、AEDの使用訓練を行い、救急車を要請後の動き等も確認し合っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回消防訓練を行い避難訓練を行っている。また定期的に消防設備の立会いがあり避難訓練の動作確認、災害時の心得等利用者と共に学んでいる。町内の災害協力協定書を交わしている。	避難訓練は、年3回実施され、夜間を想定した訓練も実施されている。コロナ禍以前は、消防署や町内会長の訓練参加もあった。地域と非常災害時の覚書を結んでおり、事業所被災時の応援や地域住民の避難場所として、相互に援助し協力し合う関係となっている。非常用備蓄についても、水や食料、毛布等、4日分を事業所内に準備している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	妄想や作話等否定はせず、利用者の気持ちに寄り添うよう努めている。生活歴等職員が把握し得意分野の活動を中心に言葉かけを行い役割を持ってもらえる様支援している。	職員はトイレ介助時には、人前であからさまに介護することなく、さりげなく、配慮した声かけを行っている。また、内部研修を行い、職員の意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で本人の希望や要望を尋ねたり家族に入居する前の本人の好みを聞いたり、必要時は選択肢をいくつか出したうえで選んでもらう様支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やレクリエーション等拒まれる時は、想いを傾聴したり時間をおいての言葉かけ、スタッフが交代して雰囲気を変えたりと利用者にあった支援方法を試みる事もあるが基本的には無理強いせず本人の意向に添っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問美容院があり本人や家族に希望する髪型を美容師に伝えたり、入浴の着替えや外出や行事の際洋服を一緒に選んでいる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に作る機会を設けている。野菜の切り込み、盛り付け、食器洗い等一緒に行っている。また月1回給食会議にて嗜好等の報告し不定期に1回選択食が設定されている。BBQや行事食は特に喜ばれている。外食は、コロナ感染予防対策により現在実施できていない。	昼食と夕食は、法人内の厨房で調理した食事が提供される。献立は利用者の嗜好をもとに、法人の栄養士が作成している。朝食や毎食のお汁、フルーツは、事業所内のキッチンで調理され、利用者が準備を手伝っている。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立であり食事の形態は、利用者個々で必要に応じて刻みやミキサー食とろみ等対応している。糖尿食等に関しては量の調整を行っている。食事、水分摂取量はチェック表に記入しこまめにチェックしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に言葉かけ、誘導、介助と個々に合わせた口腔ケアを行っている。毎年歯科検診を受けており治療の必要な方を早期発見できている。治療が必要な時は、訪問歯科を利用している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている為、常時オムツの方はいない。尿意や便意をすべてではないが伝える事ができるようになった方がいる。	職員は利用者の排泄の傾向を把握し、尿意のない利用者には時間で誘導している。日中はおむつをすることなくトイレに誘導している。トイレ誘導を継続することにより、尿意、便意を伝える事が困難な利用者が尿意を伝えることができるようになった事例がある。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の運動や飲水量を意識し、出来るだけ日中に排便できる様、便秘薬の量、服薬時間を調整している。排便チェックにて便秘の方を確認している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	重度化によりそれぞれの体面も考慮しつつ週2回の入浴を行っている。希望が言いやすい環境を作り希望がある時は、回数に関係なく入浴して頂いている。また拒まれる利用者には、対応するスタッフが交代し言葉かけをしたり次の日に変更したりと利用者に合わせて支援を行っている。	入浴は毎日提供されている。また、1日あたりに入浴する人数を少なくすることで、ゆっくりと利用者に向き合いながら入浴することができている。入浴時に、色々な話をすることで、清潔保持のための入浴目的以上の貴重な支援の時間となっている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	コロナの感染状況により、外に散歩に出掛けたり、体操等身体を動かす機会を作りつつ体調や加齢に伴う身体的低下を把握し、昼食後状態に応じて利用者の希望も含め休息時間を設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容に変更があると家族に変更理由を説明している。また痛み止めや眠剤の量が体重の変化や効きすぎ等変化がある時は、かかりつけ医に報告し指示を仰いでいる。減薬にも取り組んでおり手順を踏んで実施している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を最大限に活かせるよう裁縫や調理、歌を唄う等自然な生活の流れで発揮している。またスタッフの先生役でもある。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時は園周辺を散歩し雨天時は隣接施設内を回り、誕生月には本人が希望する外出等支援を行っていたが、現在は散歩のみ実施しその他は、コロナ感染予防対策の為実施できていない。	コロナ禍の状況ではあるが、地域の感染状況をみながら散歩や花見のためのドライブに出かけている。外出を楽しみにしている利用者も多いため、出来る限り外出支援ができるように努めている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお小遣いを持っている利用者があり移動パン屋にて買う事が以前はあったが現在は、コロナ感染予防対策により行っていない。家族には、収支報告書を毎月提示し同意書を頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者が、時折掛け方が分からなくなる事があり、介助にて家族に連絡している。またホームの電話はコードレスである為自室で親族と話している。毎年年賀状はできるだけ本人の直筆で家族に出している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間では季節の花やタペストリーを飾り天窓からの自然光を取り入れ自然な形で生活音や食事作りの匂いに包まれている。また、コロナ感染予防対策の為常時換気を行い、オゾン空気清浄器を設置し健康に配慮している。	共用の空間には、行事の写真や、利用者の書いた習字の作品が展示されている。また、展示物は季節に合わせて内容を変更している。室内は空気清浄器と換気によって、常にきれいな空気となるように配慮されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数用のテーブルやソファなど自由に行き来する事ができる様配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや食器等愛用していた品々を持ち込んで頂き、家族の写真や作品を飾ったり又は家族がレイアウトする事もあり自分の部屋として落ち着いた生活ができる様支援している。	利用者の居室には、家からタンスやテレビ、ラジカセを持ってきており、それぞれ個性的な部屋となっている。壁に制作した作品や家族の写真を掲示している部屋もあり、利用者が安心して暮らせる配慮がある。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや居室等手すりが設置されており椅子やタンスも手すりの代替として、動線に配置し安全かつ過介護にならない様、試行錯誤しながら自立に向けた環境を整えている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		